



まくらの名はいつごろついたの

古墳時代からまくらがあった

寝るときに、頭をのせるまくらは、大むかしの古墳時代（約1700年前）に見られます。その後、草まくらや木まくらのことが、「万葉集」という日本でいちばん古い和歌集にもなっています。ですから、そのころからまくらがあり、まくらという名前でもよばれていたことがわかりますが、どうしてまくらといわれたのかは、わかりません。まくらの形や中に入れるものは、時代によっていろいろ変化しています。平安時代の木まくらは、杉やつげで作られ、草まくらは、かや・すげ・しの・稲などで作られています。

まくら（枕）はしずめる（沈）と同じ仲間

まくらの意味は、ねるときに頭をのせるもの、物の下にしく木や台のことを表します。しかし、文字のともとの意味は、人の肩をおさえて下におし下げたり、水にしずめるといことです。ですから、まくら（枕）という字は、沈（しずめる）や耽（しずむ）という字と同じ仲間の文字です。（監修・保岡 孝之）

